

2018年2月23日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 1番5号 PMO 日本橋江戸通
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報課 TEL.03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

農産加工品・畜産加工品・水産加工品などの市場を調査

2022年市場予測（2016年比）

サラダチキン（市販用） 311億円（67.2%増）

～糖質オフ、ダイエット関連メニューとして認知が高まり、伸長～

カマンベールチーズ 198億円（43.5%増）

～おつまみ需要を取り込み市販用が拡大。手軽に食べられる小分けタイプが人気～

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、国内加工食品の市場調査を毎年行っており、昨年で50年目を迎えた。長年積み重ねてきたフィールドリサーチのノウハウとデータをベースに昨年8月より27カテゴリー411品目の市場調査を開始している。調査は6回に分けて行い、第5回目となる今回の調査は農産加工品、畜産加工品、水産加工品、乳油製品の4カテゴリー75品目の市場を分析した。その結果を報告書「**2018年 食品マーケティング便覧 No.5**」にまとめた。なお、6回の調査終了後はそれぞれの調査結果を総括して分析する。

<注目市場>

1. サラダチキン（市販用）

2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
269億円	144.6%	311億円	167.2%

サラダチキンは2000年代から販売されていたが、2013年にセブン イレブンが「サラダチキン」を販売し大ヒットしたことで注目され、ハム・ソーセージ関連企業などの参入が相次ぎCVSを中心に伸長が続いている。糖質オフによるダイエットが話題となり注目が集まる中、2017年はファミリーマートがRIZAP初監修のスティックタイプのサラダチキン「RIZAP サラダチキンバー」を発売し、ダイエット食としての認知がさらに広まっている。また切り落としやスライスタイプの商品も相次いで発売されており今後も市場は堅調に拡大するとみられる。

2. 煮豆

2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
668億円	102.0%	678億円	103.5%

煮豆は中高年層を中心としたリピート需要はあったものの、低価格なPB商品の増加により、2011年以降市場はマイナス成長が続いていた。しかし、2017年はメディアで食事の際に大豆を食べると糖や脂肪の吸収を穏やかにし、中性脂肪の抑制に効果があると紹介されたことにより消費者の関心が高まったり、また蒸し豆、蒸し大豆の摂取によるダイエットや便秘解消効果も注目されたことから、市場は前年比2.0%増の668億円が見込まれる。2018年も続伸するが、以降は横ばいが予測される。

3. 納豆

2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
1,238億円	101.9%	1,255億円	103.3%

納豆は近年消費者の健康志向や節約志向の高まりから需要が拡大している。2017年は消費者の健康志向の高まりによる需要増加に加えて、タカノフーズ「すごい納豆 S-903」やMizkan「金のつぶ サラダをいしく!ごま醤油たれ 3P」の発売により風邪予防や新たな食べ方が提案され、実績が拡大していることから市場は前年比1.9%増の1,238億円が見込まれる。今後は微増から横ばいへの推移が予想される。

4. ナチュラルチーズ

	2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
ナチュラルチーズ	1,603億円	103.1%	1,785億円	114.8%
クリームチーズ	305億円	105.2%	344億円	118.6%
カマンベールチーズ	150億円	108.7%	198億円	143.5%

クリームチーズとカマンベールチーズはナチュラルチーズの内数。

ナチュラルチーズは外食メニューや加工食品の材料として使用されることで市場が拡大してきたが、近年ではクリームチーズやカマンベールチーズなどの手軽に食べられる小分けタイプを中心におつまみ需要を取り込み拡大している。2017年も引き続き市販用を中心にクリームチーズとカマンベールチーズが好調なほか、業務用でもチーズを使用したメニューや製品の増加により引き合いが高まっており、ナチュラルチーズ全体で前年比3.1%増が見込まれる。今後も一人当たりのチーズ消費量の拡大余地は大きいとみられ、2018年以降も堅調に拡大するとみられる。

< 調査結果の概要 >

	2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
農産加工物	1兆2,781億円	100.1%	1兆2,723億円	99.7%
畜産加工物	1兆82億円	102.0%	1兆266億円	103.8%
水産加工物	8,690億円	99.5%	8,448億円	96.7%
乳油製品	6,820億円	101.7%	7,196億円	107.4%

農産加工物は消費者の健康志向を背景とした需要増加がみられる。納豆は風邪予防や新たな食べ方提案によって伸長している。煮豆は蒸し豆のダイエット効果が、豆腐は木綿豆腐の高血圧予防がそれぞれメディアで注目され、需要が増加している。2017年は食中毒事件の影響でポテト系を中心としたサラダ類が一時期落ち込んだが、参入企業による販促強化により実績が拡大し、全体では微増が見込まれる。

畜産加工物は市場規模の大きいハム・ソーセージ類は需要が飽和している。一方、市販用サラダチキンは糖質オフ、高タンパク低カロリーが支持されCVSを中心に伸長している。また冷凍食品メーカーが展開する冷凍唐揚げで新商品の展開が相次ぐなど、チキン加工品の需要が大きく拡大している。

水産加工品では消費者の魚離れや食の多様化により市場規模の大きい水産練製品を中心に縮小が続いていることから全体でもマイナスが続いている。2017年はサンマ、シャケなどの不漁により原料価格が高騰していることなども市場縮小の要因となっている。

乳油製品では、近年バター需給が安定せず、市場が縮小することもあったが、直近では各社が安定供給に努めていることから落ち着きを取り戻している。マーガリン類は市販用ではパンメニューの多様化や健康面へのマイナスイメージもあって減少が続いているが、業務用は作業簡便化のニーズが高まる中で機能性タイプが伸長している。チーズ類はアルコールのお供となるおつまみ需要の高まりを背景にベビーチーズやクリームチーズ、カマンベールチーズなどを中心に伸長しており、特に手軽に食べられる小分けタイプの需要が増加している。

< 調査対象 >

農産加工品		
1. 漬物	10. なめ茸茶漬類	19. 素材缶詰
2. キムチ	11. 山菜加工品	20. 果実缶詰
3. 煮豆	12. 味付けメンマ	21. 冷凍野菜
4. 納豆	13. はるさめ	22. ポテト加工品
5. 凍豆腐	14. 加工ごま	23. 素材系ミックス(市販用)
6. 豆腐	15. ジャム類	24. 冷凍果実(市販用)
7. 豆腐加工品	16. スプレッド類(市販用)	25. はちみつ(市販用)
8. 味付油揚げ	17. 素材系トマト	26. こんにやく米
9. こんにやく	18. サラダ類	

畜産加工品		
1.ハム類	6.チキン加工品	11.コンビーフ類
2.ベーコン	7.サラダチキン(市販用)	12.食肉加工品缶詰・パウチ
3.生ハム	8.焼豚	13.やきとり缶詰
4.ソーセージ類	9.焼肉類	14.おつまみ缶詰
5.ドライソーセージ	10.牛肉味付缶詰・パウチ	
水産加工品		
1.魚肉ハム・ソーセージ	8.海苔佃煮	15.水産缶詰
2.水産練製品	9.昆布佃煮	16.青魚缶詰
3.風味かまぼこ	10.かつおパック	17.ツナ加工品
4.ちくわ	11.塩辛	18.辛子明太子
5.パックおでん	12.もずく酢	19.鮭フレーク(市販用)
6.のり	13.めかぶ	20.乾燥わかめ(市販用)
7.韓国のり	14.スモークサーモン	
乳油製品		
1.バター	6.クリームチーズ	11.市販用チーズ
2.市販用マーガリン類	7.カマンベールチーズ	12.生クリーム
3.業務用マーガリン類	8.チーズフード	13.コーヒー用クリーム
4.プロセスチーズ	9.チーズフォンデュ	14.ポーションクリーム
5.ナチュラルチーズ	10.チーズスプレッド	15.インスタントクリームパウダー

<調査方法> 富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体などへのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間> 2017年11月～2018年1月

以上

資料タイトル:「2018年 食品マーケティング便覧 No.5」

体 裁: A4判 302頁

価 格: 書籍版 100,000円+税

PDF+データ版 110,000円+税

書籍/PDF+データ版セット 130,000円+税

ネットワークパッケージ版 200,000円+税

発 行 所: 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通

TEL: 03-3664-5811(代) FAX: 03-3661-0165

URL: <https://www.fuji-keizai.co.jp/> e-mail: info@fuji-keizai.co.jp

調 査・編 集: 東京マーケティング本部 第一部

TEL: 03-3664-5821

FAX: 03-3661-9514

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>